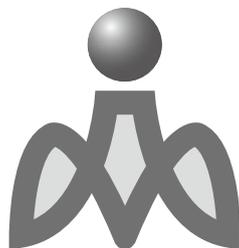


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔令和4年4月～6月実績〕
〔令和4年7月～9月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 164企業

2. 調査対象期間

第1四半期 令和4年4月～6月期 「調査時点：令和4年6月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービスマ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	3	14
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	52	164

5. そ の 他

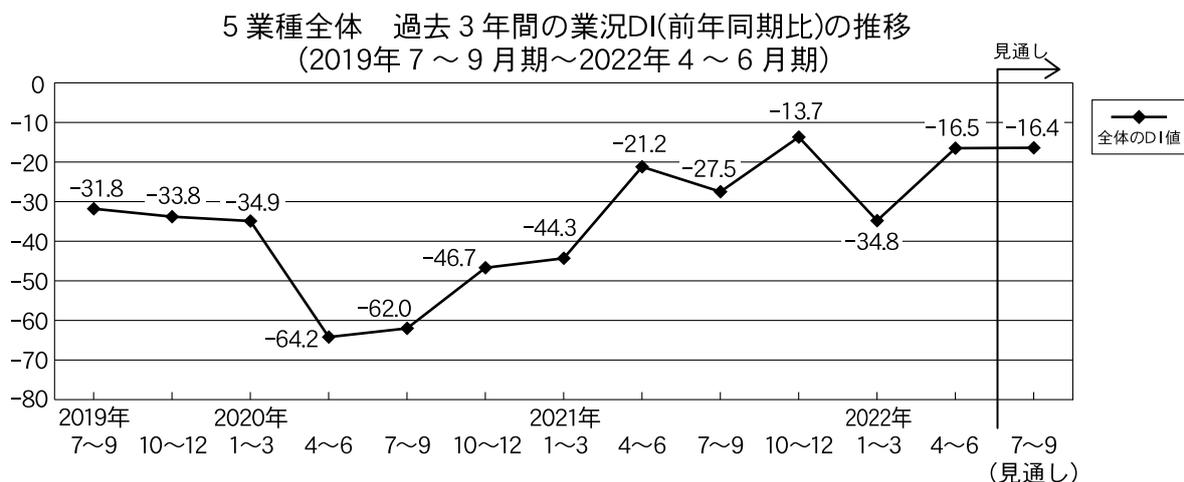
本報告書のDIとは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断DI、及び、産業別の業況判断DIについてみる。

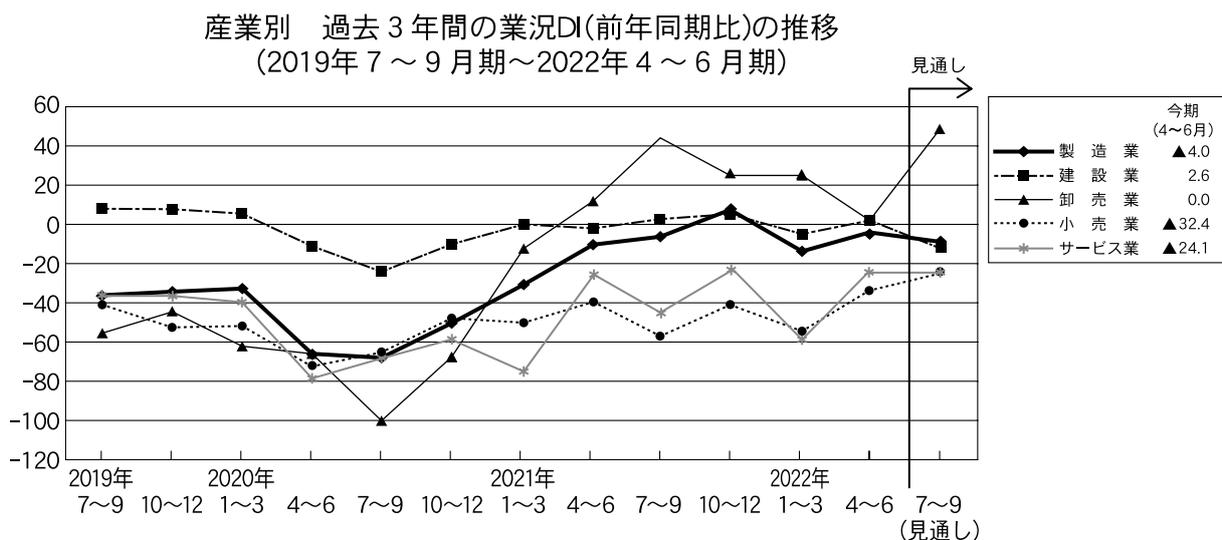
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIである。今期の業況判断DIは、▲16.5と前期比で18.3ポイント改善している。来期についても▲16.4とほぼ今期同様の見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断DIである。

小売業、サービス業は、前期よりは大きく持ち直しているものの引き続き厳しい状況が続いている。製造業が▲4.0で前期比+9.2ポイント、建設業が2.6で前期比+7.6ポイント、卸売業が0.0で前期比▲25.0ポイント、小売業が▲32.4で+22.0ポイント、サービス業が▲24.1で+34.2ポイントあった。

来期は、卸売業が大幅改善の見通し、製造業、小売業、サービス業は小幅な上下、建設業は悪化の見通しとなっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象164企業に甲府・富士吉田地域等からの120企業を含めた284サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

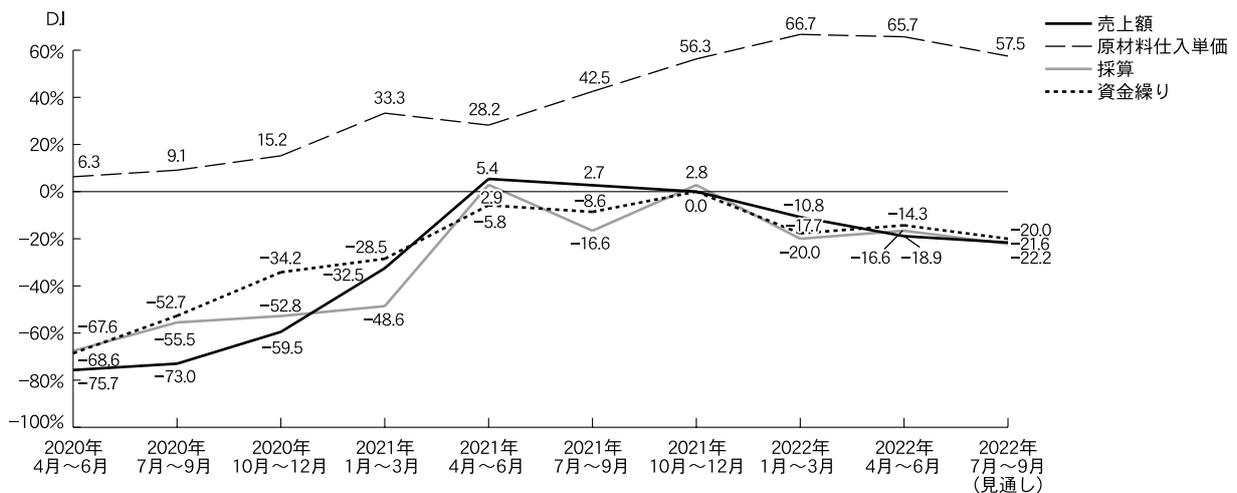
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲18.9と前期比で8.1ポイント悪化し、来期は▲21.6へと更に悪化の見通しとなっている。原材料仕入単価D Iは、今期65.7と前期比で1.0ポイント下降（改善）し、来期は57.5へと更に下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲16.6と前期比で3.4ポイントの改善だが、来期は▲22.2に悪化の見通し。資金繰りD Iも、今期▲14.3と前期比で3.4ポイントの改善だが、来期は▲20.0に悪化の見通しである。

今期は売上額D Iのみの悪化だったが、来期は原材料仕入単価D Iを除くすべてのD Iが悪化の見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

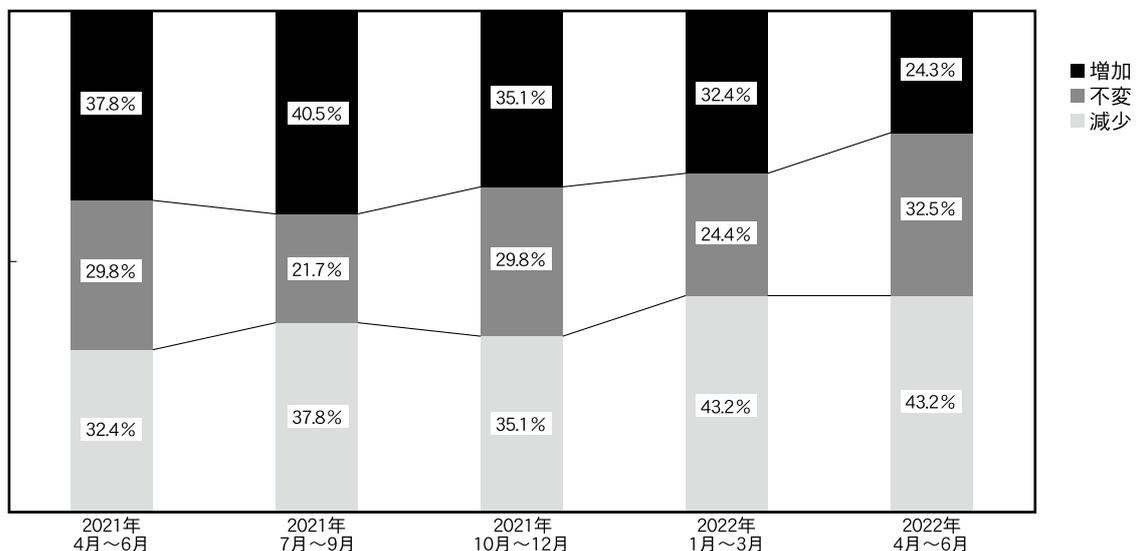
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社））

「増加」と答えた企業の割合は、24.3%（9社）と減少（前期比▲3社）している。

「不変」は32.5%（12社）と増加（前期比+3社）、

「減少」は43.2%（16社）で前期から変動はない。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数36社（前回35社）））

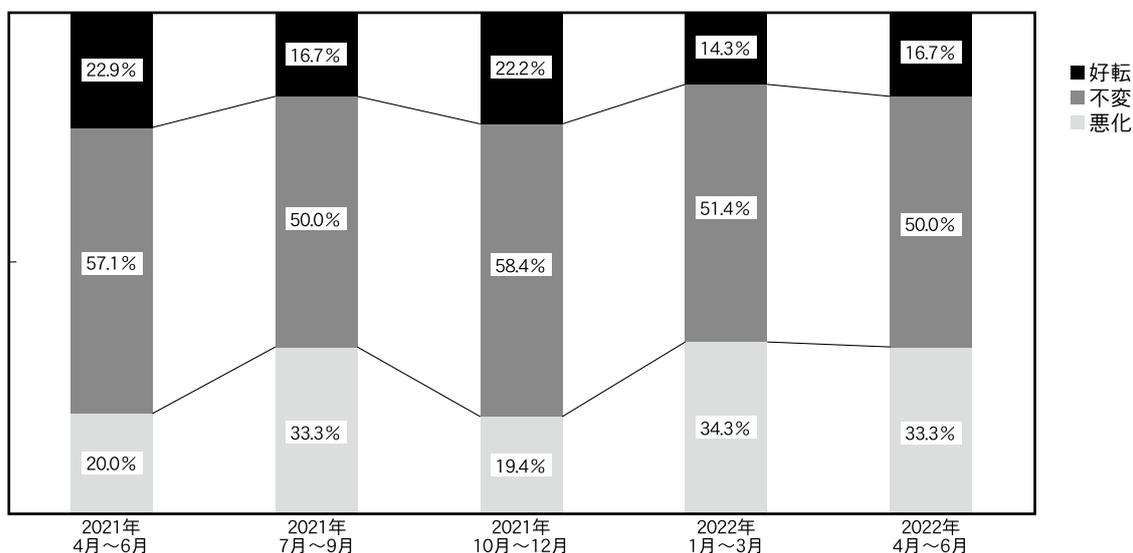
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、16.7%（6社）と増加（前期比+1社）している。

「不変」は50.0%（18社）と減少（前期と企業数の変動はなし）、

「悪化」は33.3%（12社）と減少（前期と企業数の変動はなし）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

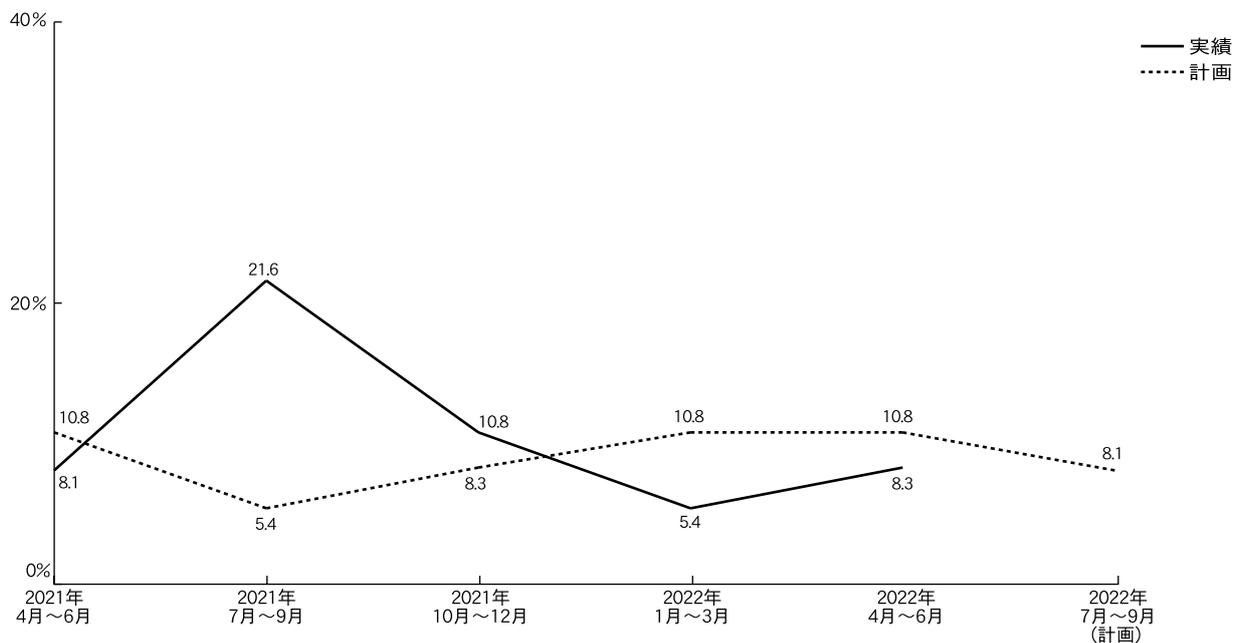


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.3%（3社）であった。その設備投資の内容は、「生産設備」「車両・運搬具」「付帯施設」「OA機器」が1件ずつであった。

来期の計画についても、8.1%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」が2件、「OA機器」が1件である。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数33社）

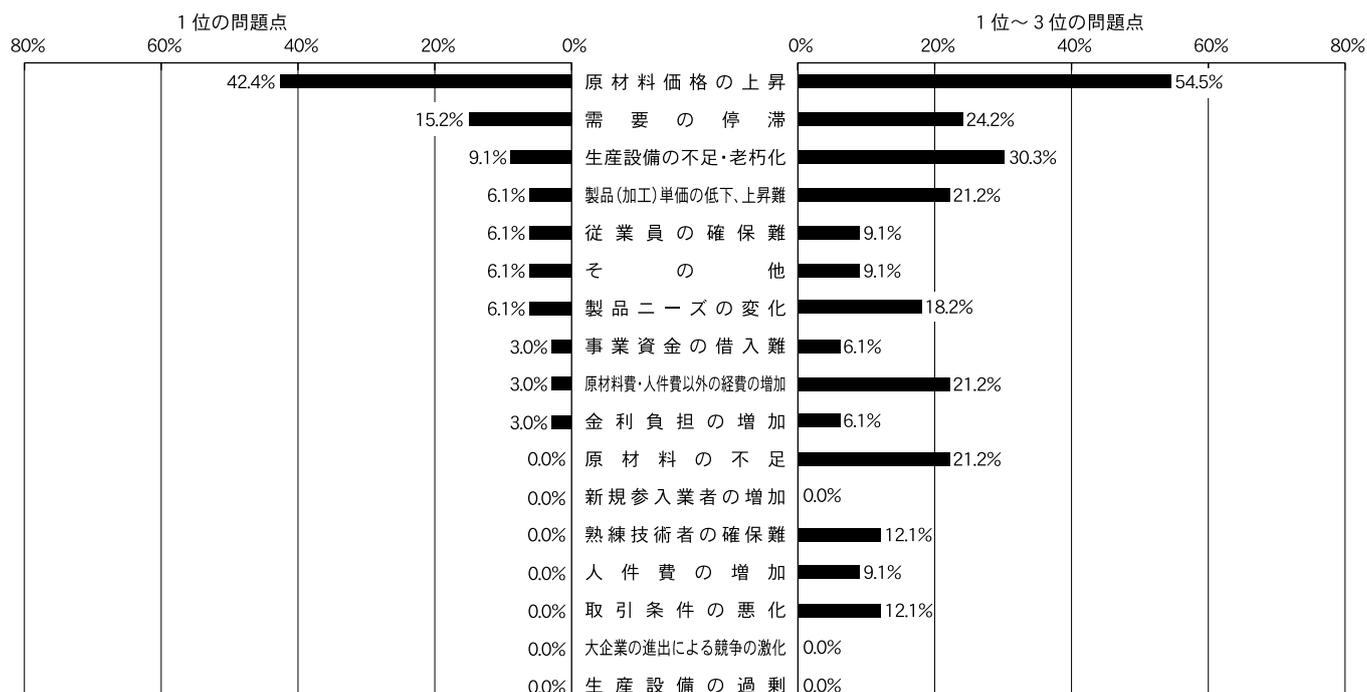
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の42.4%（14社）であり、2番目は「需要の停滞」の15.2%（5社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の54.5%（18社）であり、2番目に多かったのは「生産設備の老朽化」の30.3%（10社）であった。

山梨県 製造業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	4	10.8
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	3	8.1
一般機械器具製造業	13	35.2
電気機械器具製造業	3	8.1
精密機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	4	10.8
合計	37	100.0

従業員規模別

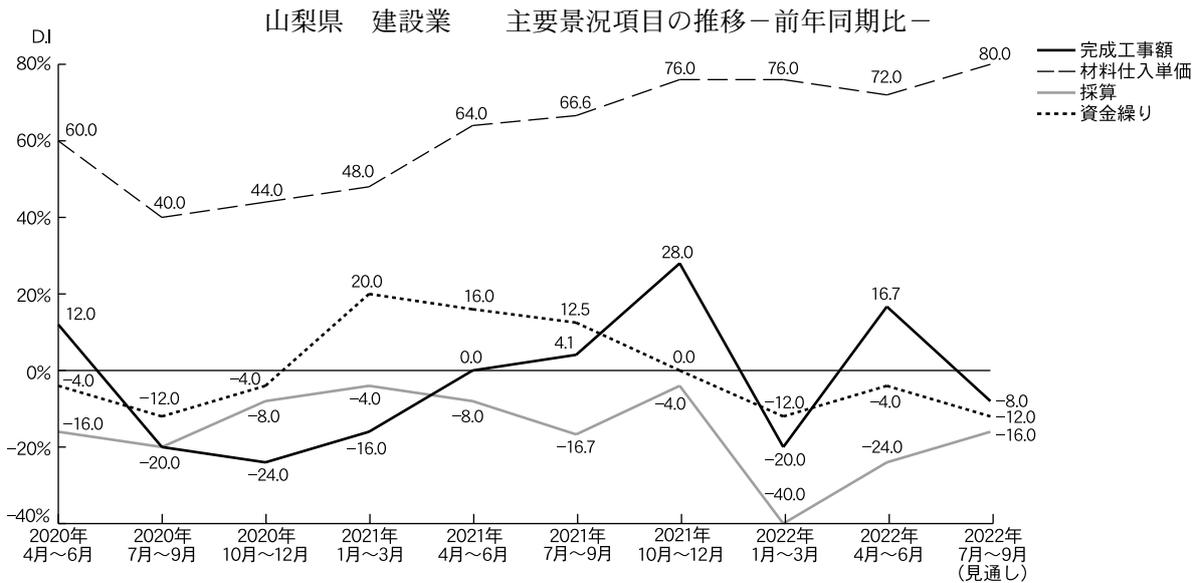
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	18	48.6	15	40.5
3人～5人以下	9	24.3	7	18.9
6人～10人以下	7	19.0	11	29.8
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期16.7と前期比で36.7ポイントの大幅改善を示したが、来期は▲8.0に悪化の見通しである。材料仕入単価D Iは、今期72.0と前期比で4.0ポイントの下降（改善）、来期は80.0に上昇（悪化）の見通しである。採算D Iは、今期▲24.0と前期比16.0ポイントの改善、来期も▲16.0へと改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲4.0と前期比8.0ポイント改善したが、来期は▲12.0へと悪化の見通しである。

今期はすべてのD Iが改善を示した。来期は採算D Iのみが改善の見通しで、それ以外のD Iは悪化の見通しである。



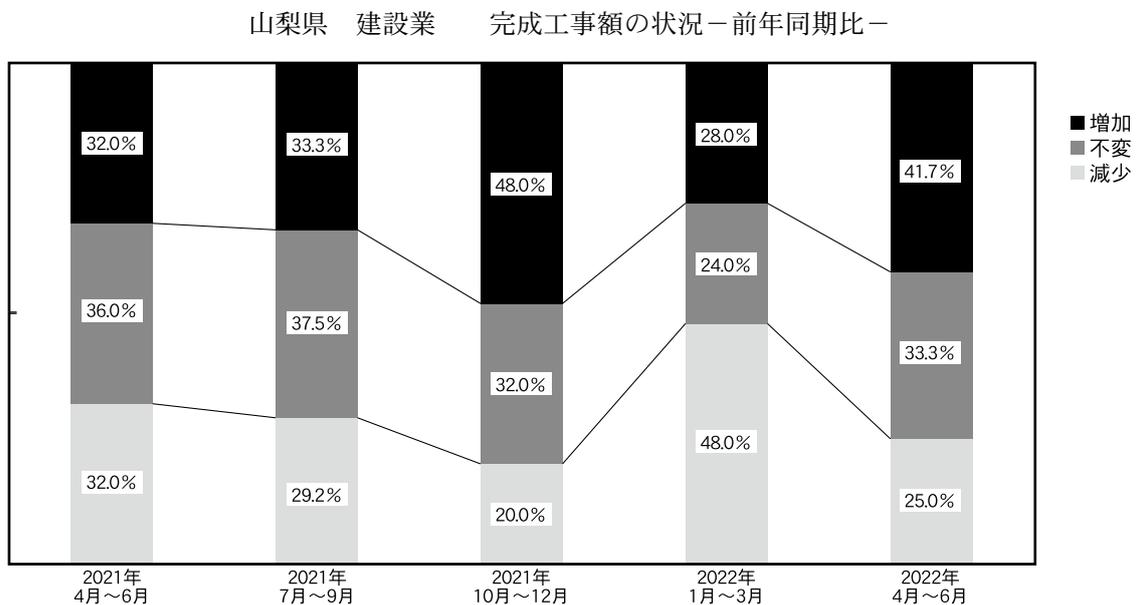
(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数24社（前回25社）））

「増加」と答えた企業の割合は、41.7%（10社）と増加（前期比+3社）している。

「不変」は33.3%（8社）と増加（前期比+2社）、

「減少」は25.0%（6社）と減少（前期比▲6社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

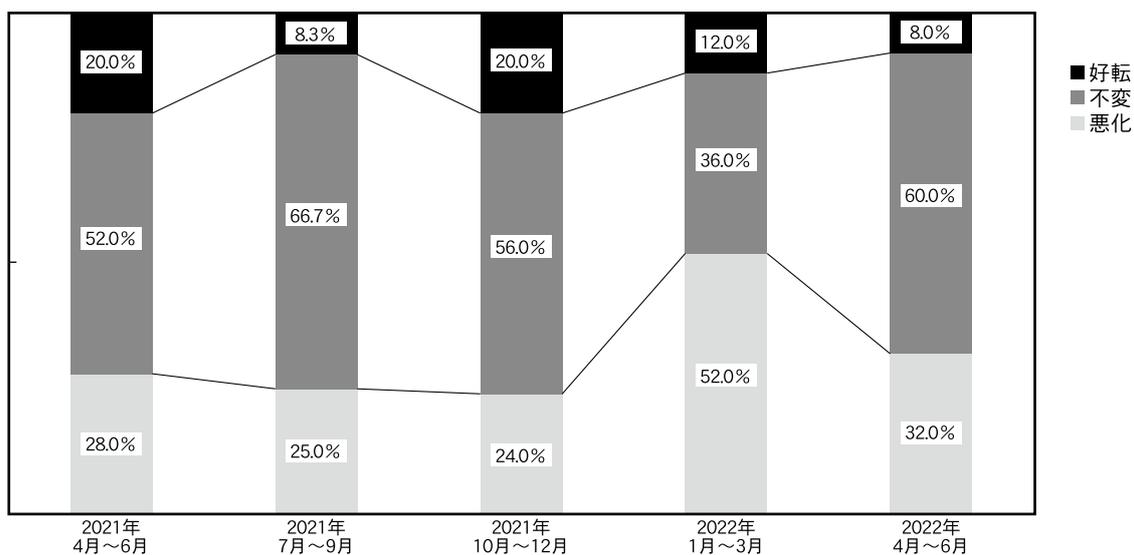
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.0%（2社）と減少（前期比▲1社）している。

「不変」は60.0%（15社）と増加（前期比+6社）、

「悪化」は32.0%（8社）と減少（前期比▲5社）している。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

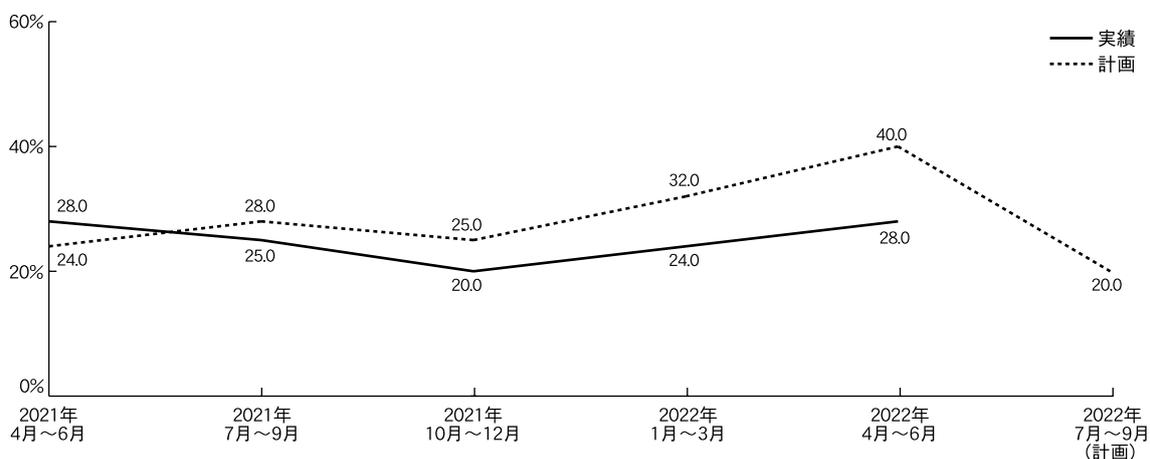


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は28.0%（7社）であった。その設備投資の内容は、「建設機械」「車両・運搬具」が3件ずつ、「OA機器」「その他」が2件ずつであった。

来期の計画については、20.0%（5社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が4件、「OA機器」が1件になる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数25社）

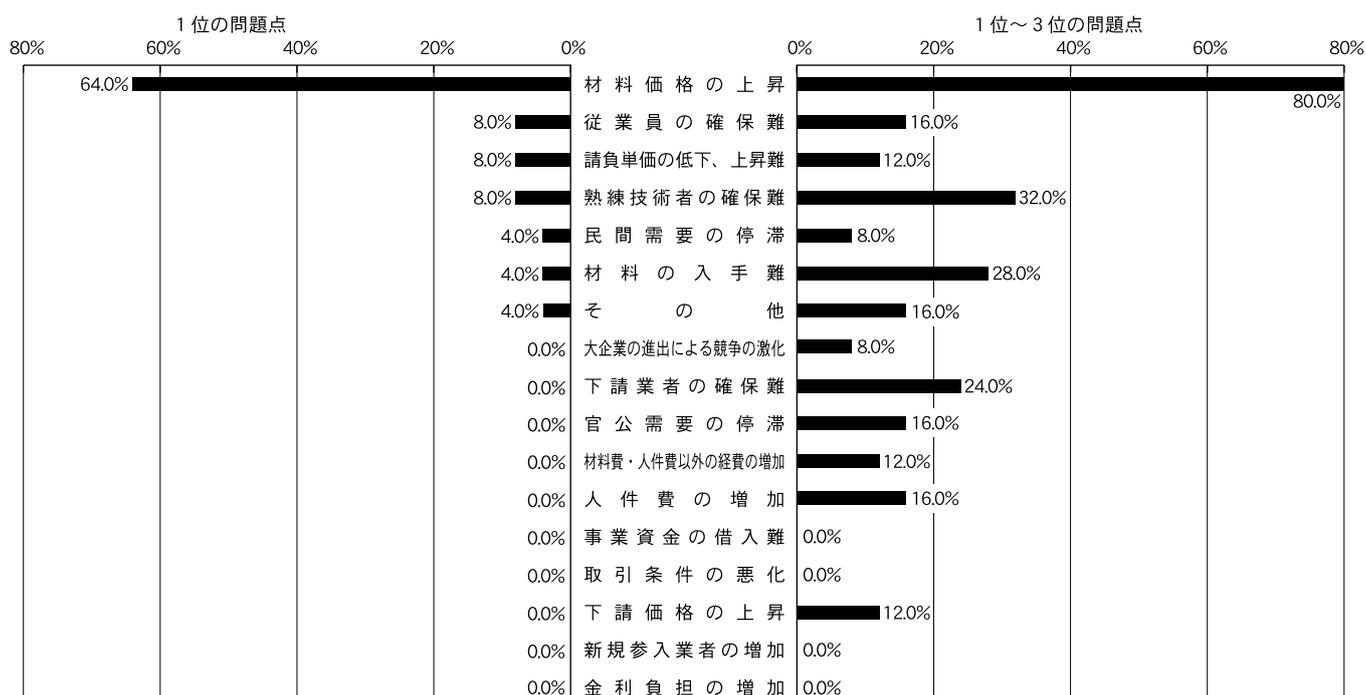
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

「材料価格の上昇」が抜きん出て挙げられており64.0%（16社）であった。それ以外の問題点は2社ないし1社が挙げているに過ぎない。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも「材料価格の上昇」が抜きん出て挙げられており80.0%（20社）であった。2番目に多かったのは「熟練技術者の確保難」の32.0%（8社）であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	3	12.0
設備工事業	3	12.0
合計	25	100.0

従業員規模別

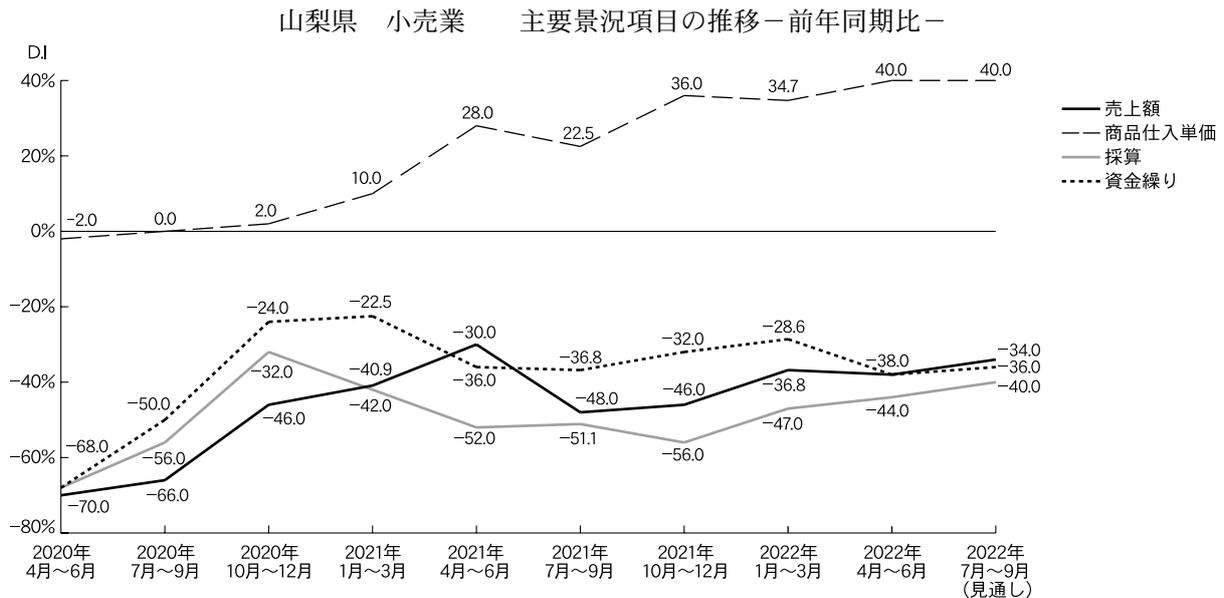
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い			
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	5	20.0	6	24.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
21人～50人以下	1	4.0	1	4.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲38.0と前期比で1.2ポイント僅かに悪化したが、来期は▲34.0へと改善する見通しである。商品仕入単価D Iは、今期40.0と前期比で5.3ポイントの上昇（悪化）し、来期も40.0と今期同等の見通しである。採算D Iは、今期▲44.0と前期比で3.0ポイント改善し、来期も▲40.0へとの改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲38.0と前期比で9.4ポイント悪化したが、来期は▲36.0へと僅かに改善の見通しである。

今期は採算D Iのみが改善、ほか全てのD Iが悪化している。来期は今期同等ないし小幅な改善の見通しである。



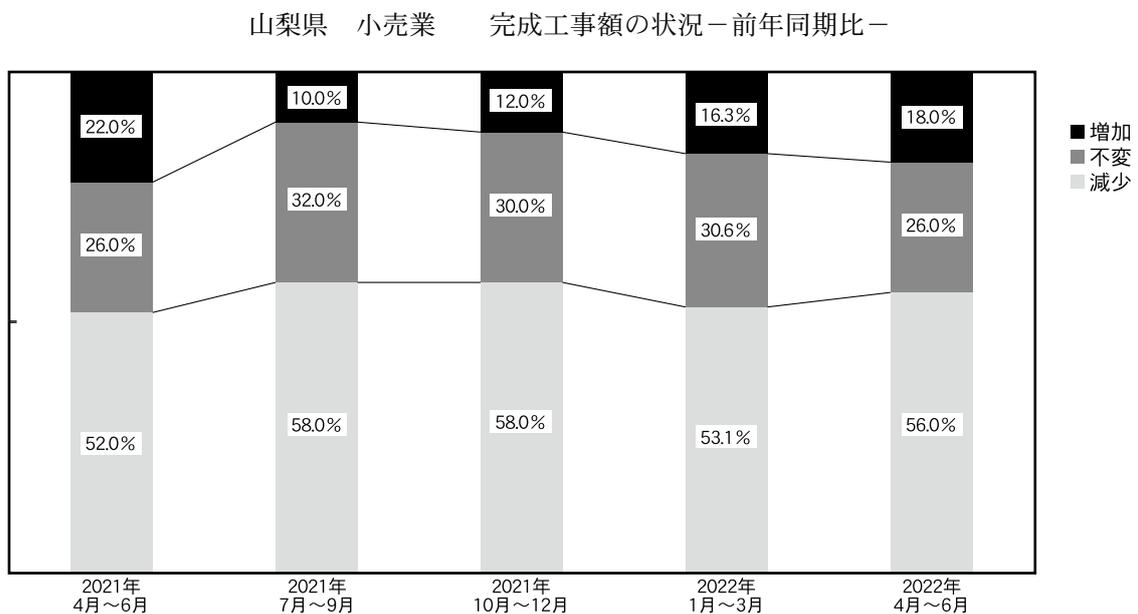
(2) 主な項目でみる業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社（前回49社）））

「増加」と答えた企業の割合は、18.0%（9社）と増加（前期比+1社）している。

「不変」は26.0%（13社）と減少（前期比▲2社）、

「減少」は56.0%（28社）と増加（前期比+2社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社（前回49社））

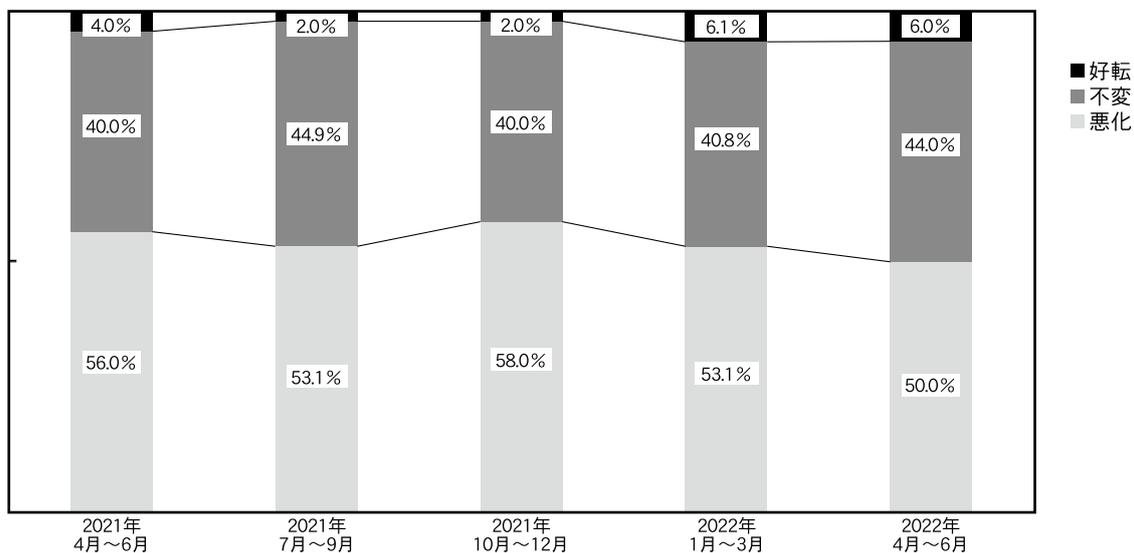
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、6.0%（3社）と減少（前期と企業数の変動はなし）している。

「不変」は44.0%（22社）と増加（前期比+2社）、

「悪化」は50.0%（25社）と減少（前期比▲1社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

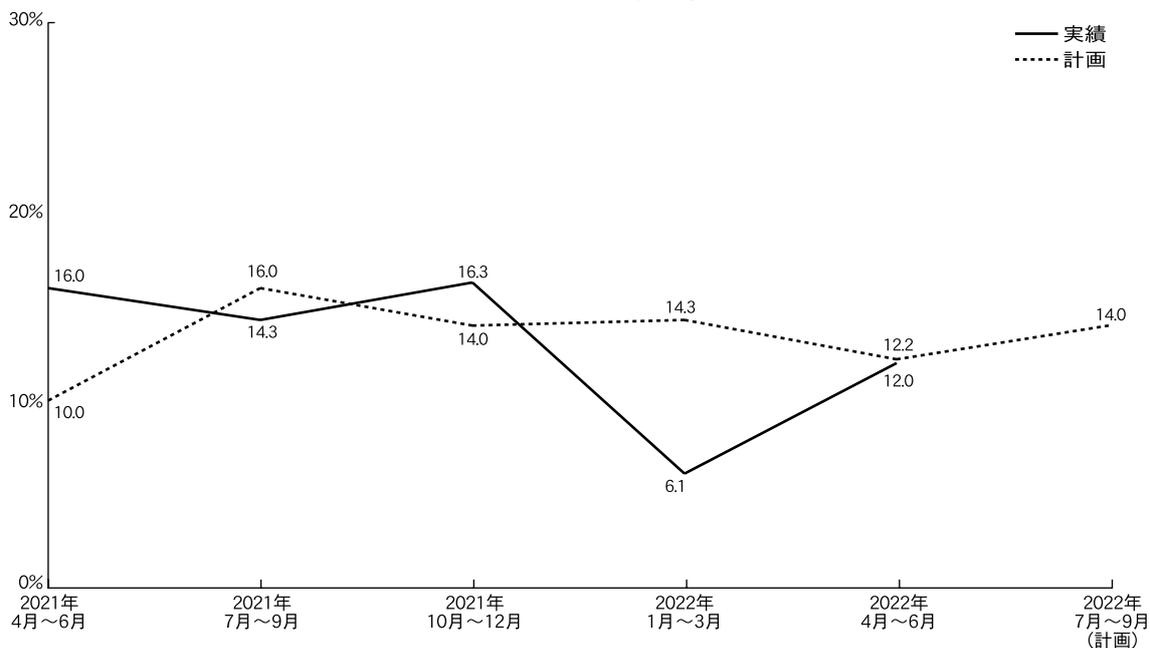


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は12.0%（6社）であった。その設備投資の内容は、「店舗」「付帯施設」が2件ずつ、「販売設備」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、14.0%（7社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「その他」が3件、「販売設備」が2件、「店舗」「OA機器」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

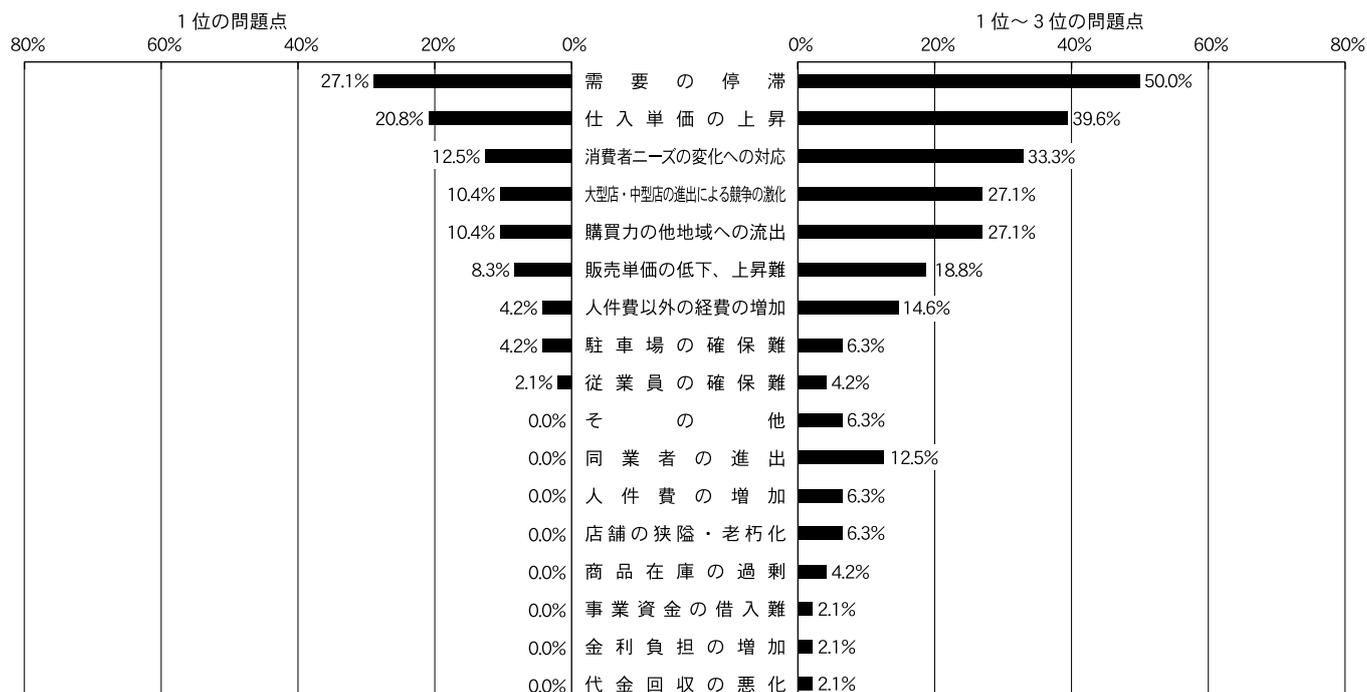
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは「需要の停滞」の27.1%（13社）であり、2番目は「仕入単価の上昇」の20.8%（10社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも1番目に多かったのは、「需要の停滞」の50.0%（24社）であり、2番目も「仕入単価の上昇」の39.6%（19社）であった。

山梨県 小売業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	9	18.0
飲食物品小売業	18	36.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	17	34.0
合計	50	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	92.0	38	76.0
3人～5人以下	4	8.0	12	24.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

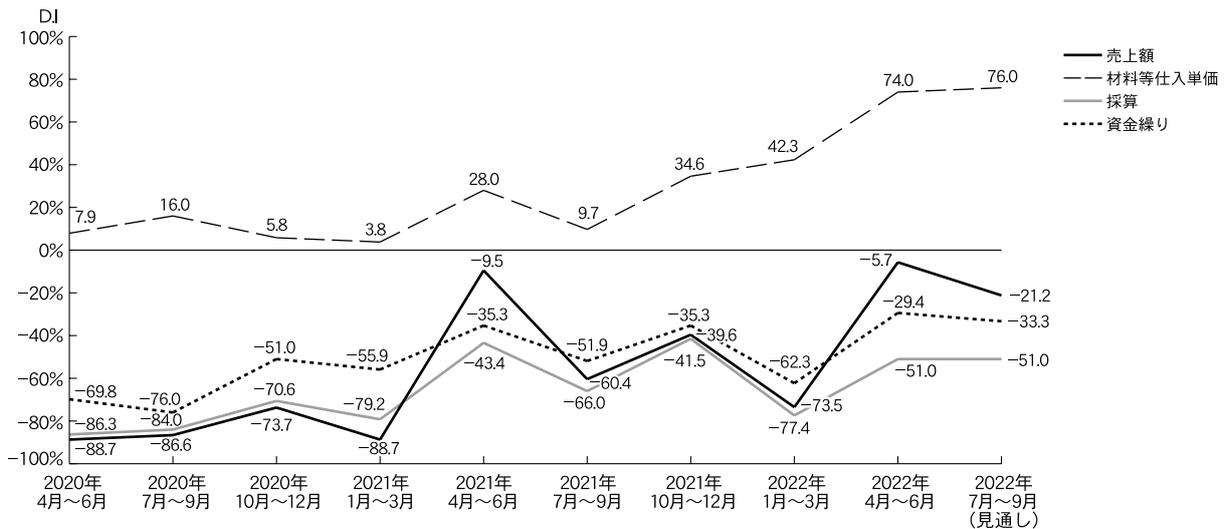
5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲5.7と前期比で67.8ポイントの大幅改善を示したが、来期は▲21.2へと再び悪化の見通しである。材料等仕入単価D Iは、今期74.0、前期比で31.7ポイントの大幅上昇（悪化）を示し、来期も76.0と若干上昇（悪化）の見通しである。採算D Iは、今期▲51.0と前期比で26.4ポイント大きく改善し、来期も今期同等の見通しである。資金繰りD Iも、今期▲29.4と前期比で32.9ポイント大きく改善し、来期は▲33.3と若干悪化の見通しである。

今期は材料等仕入単価D Iのみ悪化し、他のD Iは大きく改善した。来期は売上額D Iが悪化、他のD Iは今期同等ないし小幅な悪化の見通しである。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

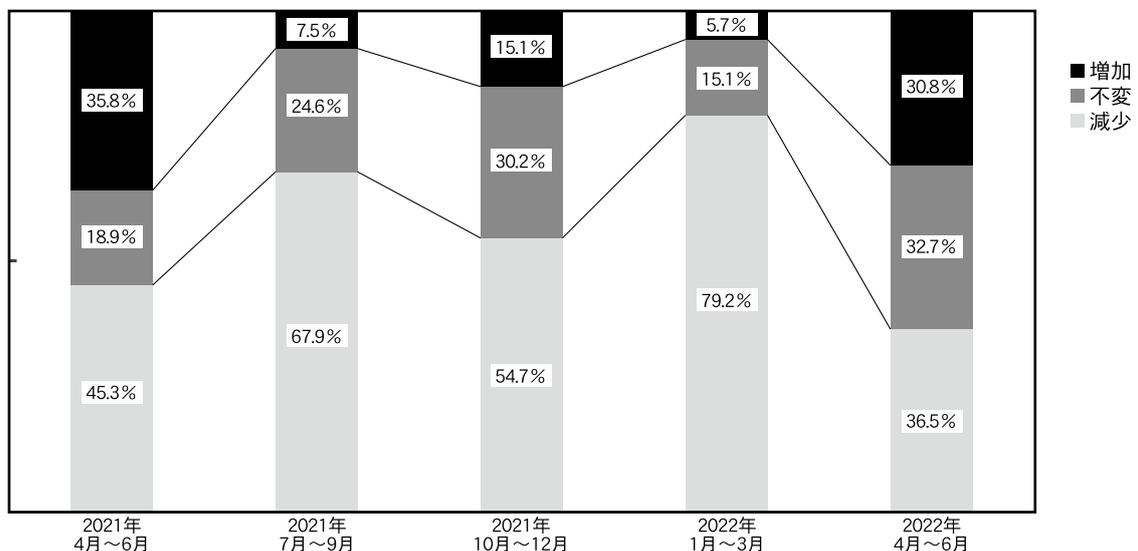
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数52社（前回53社）））

「増加」と答えた企業の割合は、30.8%（16社）と大きく増加（前期比+13社）している。

「不変」は32.7%（17社）と増加（前期比+9社）、

「減少」は36.5%（19社）と大きく減少（前期比▲23社）している。

山梨県 サービス業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数51社（前回53社））

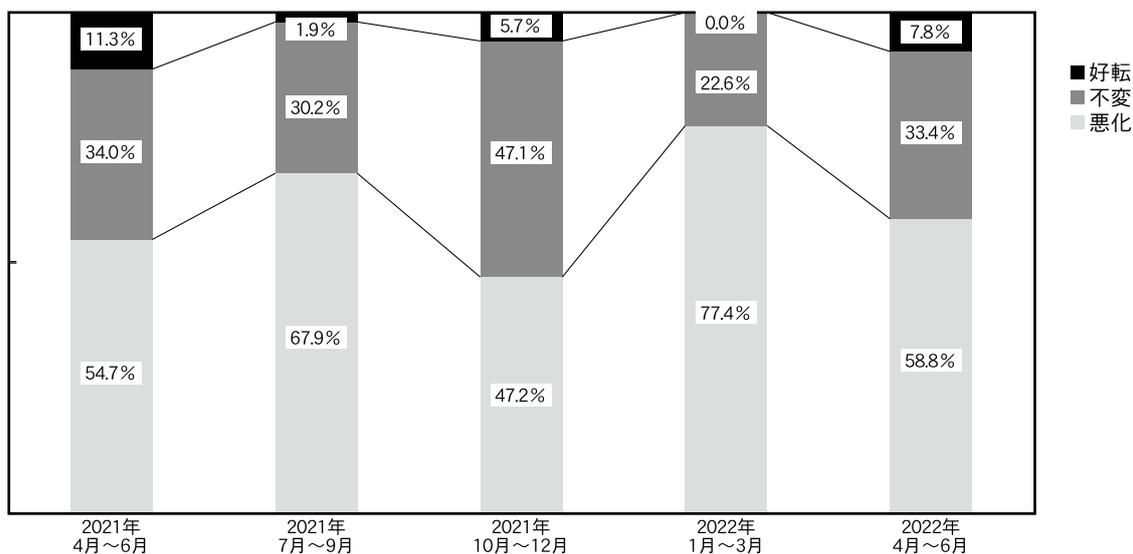
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、7.8%（4社）と増加（前期比+4社）している。

「不変」は33.4%（17社）と増加（前期比+5社）、

「悪化」は58.8%（30社）と減少（前期比▲11社）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

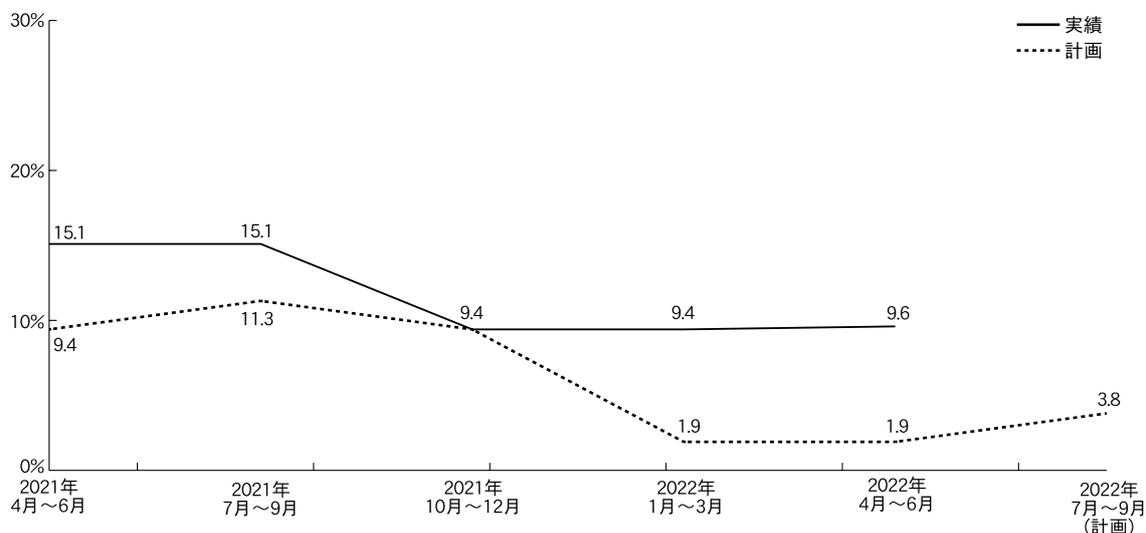


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数52社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は9.6%（5社）であった。その設備投資の内容は、「サービス」が3件、「車両・運搬具」「付帯施設」が1件ずつであった。

来期の計画については、3.8%（2社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「付帯施設」「OA機器」が1件ずつである。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数46社）

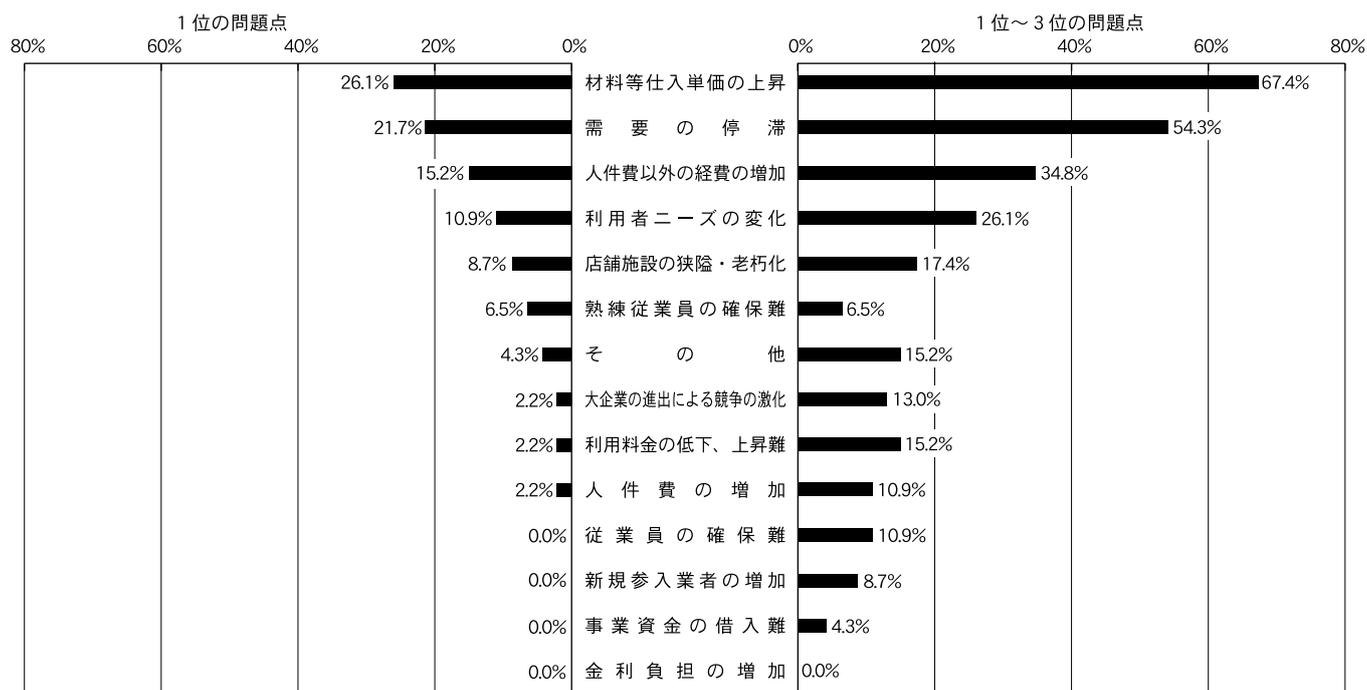
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の26.1%（12社）であり、2番目は「需要の停滞」の21.7%（10社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の67.4%（31社）であり、2番目も「需要の停滞」の54.3%（25社）であった。

山梨県 サービス業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	36.5
宿泊業	7	13.5
運送業	1	1.9
自動車整備業	4	7.7
洗濯・理美容業	18	34.6
その他のサービス業	3	5.8
合計	52	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	45	86.5	39	75.0
3人～5人以下	7	13.5	12	23.1
6人～10人以下	0	0.0	1	1.9
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	52	100.0	52	100.0